

第3回

「ぼうさい探検隊フォーラム」

報告書



- 日 時：2007年1月20日（土）14：00～15：30
- 会 場：東京都千代田区「ベルサール九段」会議室
- 主 催：社団法人 日本損害保険協会／朝日新聞社／ユネスコ／
特定非営利活動法人 日本災害救援ボランティアネットワーク
- 後 援：内閣府／総務省消防庁／文部科学省／警察庁／
全国都道府県教育委員会連合会／アジア防災センター／
社団法人 日本ユネスコ協会連盟

社団法人 日本損害保険協会

第3回「ぼうさい探検隊フォーラム」プログラム

- 13:30 開場
- 14:00 開会 主催者代表挨拶 半田 勝男（社団法人 日本損害保険協会 専務理事）
- 14:05 基調講演「ぼうさい探検隊授業実践事例」の紹介
中野 直美氏（千葉県我孫子市立布佐^{ふさみなみ}南小学校 教諭）
- 14:30 第3回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」表彰式
文部科学大臣賞、防災担当大臣賞等優秀作品を表彰
- 15:00 講演「これからの防災教育～審査総評をふまえて～」
室崎^{むろさき} 益輝^{よしてる}氏（総務省消防庁 消防研究センター所長）
- 15:25 閉会挨拶 外岡 秀俊氏（朝日新聞社 ゼネラルエディター 東京本社編集局長）
- 15:30 閉会

目次

主催者代表挨拶	2
基調講演「ぼうさい探検隊授業実践事例」の紹介	3
第3回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」表彰式	5
受賞者インタビュー	6
講演「これからの防災教育～審査総評をふまえて～」	8
閉会挨拶	9
アンケート結果	10

主催者代表挨拶



社団法人 日本損害保険協会
専務理事 半田 勝男



昨年は、豪雪や台風、梅雨前線による集中豪雨など多くの自然災害が、日本のみならず世界各地に被害をもたらしました。また、年明け早々には千島列島の東方沖でマグニチュード8.2の大地震が発生し、津波警報が出されました。私ども損害保険業界では、こうした大きな災害に直面するたびに、防災対策の大切さを痛感しております。

防災対策は、世代を超えて受け継がれるべき「財産」です。日本損害保険協会では、防災は人々の意識から、それも次の世代を担う子どもたちの意識から高めていく必要があると考え、2003年からこの「ぼうさい探検隊」活動を本格的に推進しています。

この取り組みは、子どもたちがまちを探検し、防災や防犯に関する施設や設備を発見することで、まちの安全意識と地域への関心を高めていく実践的な安全教育プログラムです。全国の小学校の先生方、地域の防

災リーダーの方、そして何より多くの子どもたちに支えられ、本マップコンクールも今年で3回目を迎えました。今回は、全国から実に1,000を超える作品をご応募いただくなど、活動は回を重ねるごとに着実な広がりを見せています。今後は子どもたちだけでなく、先生や保護者の方々、さらには地域全体を巻き込んで「安全」で「安心」な地域社会づくりに寄与できればと考えております。

この活動に賛同いただき、惜しみないご協力を賜りました政府機関、関係団体の皆様、マップコンクールにご参加いただいた方々、そしてフォーラムにご参加いただいた皆様すべてに、あらためてお礼を申し上げます。主催者として、「ぼうさい探検隊」の活動が、ひいては防災意識の高まりが、子どもから親、そして地域へと大きく広がっていくことを心より祈念しております。



基調講演 「ぼうさい探検隊授業実践事例」の紹介



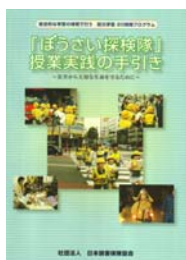
千葉県我孫子市立布佐南小学校 教諭
中野 直美氏

防災学習の目的と

「ぼうさい探検隊授業実践の手引き」

日本は自然豊かな国である反面、地震や洪水、火山噴火などの自然災害と常に隣り合わせです。こうした災害に直面した際、少しでも被害を軽減するために、子どもたちと共に正しい知識と対策を考えていくことが、防災学習の目的だと思っています。

「ぼうさい探検隊授業実践の手引き」は、防災学習に取り組もうとする先生のための授業づくりのヒント集であり、災害・防災に関する資料として、実際の学習で活用できる教材です。現在、小学校には3・4年生で年間105時間、5・6年生で110時間の「総合的な学習の時間」枠が設けられていますが、大半は「環境」や「国際理解」に占められ、防災に割ける時数は限られています。そんな中、何とか取り入れてもらえる時数として、20時間を設定した授業プログラムとしています。今年度、私の学級ではこの教材を用いて「ぼうさい探検隊」の活動を進めました。



教材を利用して防災に対する基礎知識を身に付ける (1~3時)

最初に「わたしたちをおそう、おそろしい災害」という教材を用いて、日本は地震や津波、大雨、火山噴火などの自然災害にいつ遭遇するか分からないことを写真と文章で説明しました。次に、見落としがちな「災害後の暮らし」について、避難所での生活や救援物資の調達、復旧までの道のりなどを説明しました。

続いて「稲むらの火」という物語を読み、「村人がなぜ生き残れたか」についてグループ単位で話し合いました。児童たちからは、主人公の五兵衛が「災害について正しい知識を持っていたこと」「助けたいという思いやりがあったこと」「村人同士の人間関係が良かったこと」などの意見が出てきました。

危険予知トレーニング「KYT」を用いた学習 (4~7時)

次に、イラストの中から「危ない所」を探す「KYT」と呼ばれる危険予知トレーニングを行いました。この教材は、子どもたちが友達と競いながら危険箇所を探すことで、災害時のイメージを具体的に持つことができます。「危ない所」以外にも、安全を守る人や施設を見つけてワークシートに書き出す学習を行い、さらには地震発生時に家庭では何ができるかについて考えました。

その後、こうして学んだことを家の人と話し合ってもらった宿題としましたが、意外にも家族の防災に対する意識が低かったことから、子どもたちは「家族を説得するために学習を進めよう」という意欲を持って学習を進めていくことになりました。

20時間授業プログラム例

1. 導入(1-2時) 災害について知る
2. 展開(3-4-5-6-7時) 防災について考える
3. 準備(8-9時) 自分達のまちに置き換える
4. まちの探検(10-11-12時) 自分達のまちを知る
5. マップ制作(13-14-15-16時) マップにまとめる
6. 発表・相互評価(17-18時) 思いを伝える
7. 災害後の生活を想像する(19時) 学んだことを今後の生活に生かしていく
8. 自分達にできる備えとは(20時)

図1 「ぼうさい探検隊」20時間の授業プログラム例

教材を利用して防災に対する基礎知識を身に付ける (KYT) (第4時)

教材④まちの危ない所はどこだろう?
台風=青、地震=赤で色分けをして危険箇所に印理由を口頭で発表

- 「木造家屋の密集」
- 火災発生時、燃え広がる
- 「ビルの看板」
- とばされる・落下
- 「海岸で釣り」
- 高波・津波 など

図2 危険予知トレーニング「KYT」の例

基調講演 「ぼうさい探検隊授業実践事例」の紹介

まちなか探検と防災マップづくり (8~16時)

事前学習の後は、いよいよ「まちなか探検」と「マップづくり」です。我孫子市では、各家庭に「我孫子市安全マップ」が配布されており、学区の安全を守る施設・設備、想定される危険などが記載されています。子どもたちは「大雨・洪水」「地震」をテーマに計4チームに分かれ、このマップから得られる情報をもとに、探検ルートやインタビュー内容などの計画を立てました。その後、計画に沿ってまちなかを探検し、消防署や近隣センター、特別養護老人ホームなどを回って関係者にインタビューしました。また、調整池や貯水槽、消火栓、防火水槽などの施設・設備や危険個所を自らの目で確かめました。

その後のマップ制作もチーム単位で進めましたが、子どもたちは「皆で一つのものを作る」作業に、夢中になっていました。また、他チームと競い合う形にしたことで、各自が少しでも良いマップを作ろうとする効果がありました。こうした活動を通じ、子どもたちは情報を収集・整理し、まとめる力を身に付けていきました。



「まちなか探検」で危険個所をチェックする子どもたち



夢中になってマップづくりに励む子どもたち

ぼうさいマップの活用と学習のまとめ (17~20時)

マップの完成後はチームごとに発表し、相互に情報を交換しました。また、本校で実施している「南っ子まつり」の場でも、全校児童や地域の人たちに向けて発表しました。子どもたちは、下級生に分かりやすく伝えるため、クイズや紙芝居を取り入れるなど工夫し、さらには応急手当の方法や災害用伝言ダイヤルの使い方を記した名刺サイズのカードを作成し、見に来てくれた人に配付しました。

その後、発表が終わって満足してしまっている子どもたちに、今実際に災害が起きたらどうなるかを想像させ、このテーマに継続的に取り組む意識を持たせました。また、まとめとして「奥尻島のお友だちの作文」を読み、災害の恐ろしさ、被災者の思いをあらためて子どもたちの心に刻み込みました。



壇上でプロジェクターを使いながら説明する中野先生

防災学習は、子どもたちが地域について知り、「守られている」ことに気がきます。そして、子どもたちの中には、地域の一員としての自覚も芽生え、成長につながります。さらには、子どもが呼びかけることで、大人の意識も変わり、「災害に強いまちづくり」が期待できます。現状では、「防災学習は特別な学習」ととらえられていますが、今後は「普通の学習」として当たり前に取り組みされるようになってほしいと思います。

第3回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」表彰式

第3回「小学生のぼうさい探検隊マップコンクール」には、全国の小学校や子ども会など224校・団体（小学校118、団体106）から、1,052作品もの応募があり、入賞7団体に対して次のとおり表彰を行いました。

※昨年の応募数は、219校・団体（小学校109、団体110）、782作品



入賞団体・プレゼンター

◆文部科学大臣賞

受賞団体：秋田県秋田市立飯島小学校 「マックスさくら たんけんたい」

プレゼンター：梶山 正司氏（文部科学省 スポーツ・青少年局 学校健康教育課 課長補佐）

◆防災担当大臣賞

受賞団体：福島県相馬市川原町児童センター 「みつばち防災探検隊」

プレゼンター：荒木 潤一郎氏（内閣府 企画官（災害予防担当）災害情報調査室長）

◆総務省消防庁長官賞

受賞団体：静岡県浜松市立村櫛小学校 「村櫛防衛隊」

プレゼンター：金谷 裕弘氏（総務省消防庁 国民保護・防災部 防災課長）

◆まちのぼうさいキッズ賞（ユネスコ提供）

受賞団体：静岡県浜松市立伊平小学校 「伊平もっと知り隊」

プレゼンター：秋山 和男氏（文部科学省 国際統括官付ユネスコ協力官）

◆未来へのまちづくり賞（朝日新聞社賞）

受賞団体：ガールスカウト日本連盟奈良県第1団 「ならまち防災探検隊」

プレゼンター：外岡 秀俊氏（朝日新聞社 ゼネラルエディター 東京本社編集局長）

◆ぼうさい探検隊賞（日本損害保険協会賞）

受賞団体：三重県鳥羽市安楽島子ども会 「安楽島キッズ防災探検隊」

プレゼンター：半田 勝男（日本損害保険協会 専務理事）

◆わがまち再発見賞（日本災害救援ボランティアネットワーク賞）

受賞団体：沖縄県那覇市金城児童館 「金城クローバー」

プレゼンター：渥美 公秀氏（日本災害救援ボランティアネットワーク 理事）

受賞者インタビュー

【文部科学大臣賞 「マックスさくら たんけんたい」 山崎 ^{けん} 拳さん】



受賞者インタビュー

—おめでとうございます。入賞は驚きましたか？
はい。とてもびっくりしました。
—このマップを誰に見てほしいですか？
全校のみんなと地域の皆さんに見てほしいと思います。
—マップのどんな所に工夫しましたか？
(平坦な地図にならないよう)線路を工夫しました。

【防災担当大臣賞 「みつばち防災探検隊」 武澤 ^{まい} 舞さん】



受賞者インタビュー

—なぜ「お年寄りを守りたい」というテーマにしたのですか？
私たちは時々、児童センターで近所のお年寄りに遊んでもらっています。そして、話をしているうちに、災害時に逃げる場所が分からないお年寄りの人たちがいることを知って、それをテーマにしました。

【総務省消防庁長官賞 「^{むらくし}村櫛防衛隊」 田中 智也さん】



受賞者インタビュー

—「ぼうさい探検隊」に取り組んで、気づいたことはありますか？
防災に関する設備が村櫛にちゃんと整っていると知って安心しました。その中でも、洪水などで水が溢れた時、水をせきとめる水門が16個もあることに驚きました。これからは家庭で災害について話し合い、災害に関する知識を身に付けたいと思います。

【まちのぼうさいキッズ賞 (ユネスコ提供) 「伊平^{いだいら}もっと知り隊」 前嶋 ^{りよ} 理世さん】



受賞者インタビュー

—マップを作った感想を教えてください。
今まで気が付かなかった土石流やがけ崩れなど「まちの危険」なところが分かりました。

受賞者インタビュー

【未来へのまちづくり賞（朝日新聞社賞） 「ならまち防災探検隊」 かしはら 柏原 沙織さん】



受賞者インタビュー

—このマップを作った感想を教えてください。
 今まで以上に、ならまちを好きになりました。そして、まちの人たちは協力して、ならまちを守っていることが分かりました。私たちもこれから“ならまちの文化財”を守っていこうと思いました。

【ぼうさい探検隊賞（日本損害保険協会賞） 「安楽島キッズ防災探検隊」 浜口 弘樹さん】



受賞者インタビュー

—マップを作る時、どんな点を工夫しましたか？
 まちの人たちに防災無線の聞き取り調査を行ったことです。防災無線が聞こえにくかった所は、聞こえるようにしてほしいと思います。

【わがまち再発見賞（日本災害救援ボランティアネットワーク賞） 「金城クローバー」 石川 華園さん】



受賞者インタビュー

—コンクールに入賞した感想を教えてください。
 家族に報告したら、お兄ちゃんが、いつか何かやると思っていたと言ってくれました。



展示マップを熱心に見つめる参加者



TV局の取材を受ける受賞者

講演 「これからの防災教育～審査総評をふまえて～」



総務省消防庁 消防研究センター所長
審査員長 室崎 益輝 氏

マップから伝わる

子どもの「優しさ」と「素直さ」

「子どもは守られる存在」と思われがちですが、災害時には「助ける存在」としても大きな力になります。例えば、避難所で赤ちゃんのお守りをしたり、「津波が来るぞ！」と大声で知らせたりすることができます。大切なのは、子どもと大人が協力して「皆の命は皆で守る」という視点だと思います。

今回の審査では、大人が忘れていた子どもの素晴らしさ、特に「優しさ」や「素直さ」を感じました。「みつばち防災探検隊」の活動からは、お年寄りや困った人を何とか助けようという優しい心が感じられます。小学校2年生だけで制作に挑んだ「マックスさくら たんけんたい」のマップには、「怖いお兄さんがいるから近寄らないようにしましょう！」など、子どもらしい素直な気持ちが表現されています。「村櫛防衛隊」は、まちにある山や林などを見て回り、危険なものや役立つものを子どもらしい素直な視点で発見しています。

マップづくりで身に付く

「知る力」「考える力」「動かす力」

マップづくりを通して「知る力」「考える力」「動かす力」が子どもたちに身に付きます。まず、皆と一緒に楽しくまちなかを歩くことで、さまざまな「気づき」と「知る力」が得られます。次に、「気づき」から「なぜ?」「どうして?」と疑問を起すことで「考える力」が身に付きます。そして、それが「動かす力」へと結びつくのです。今年度の作品からは、特に「考える力」と「動かす力」が強く感じられました。

例えば、「ならまち防災探検隊」は奈良という歴史あるまちを調べていくうち、実はとても安全なまちに作られていることに気づいています。「安楽島キッズ防災探検隊」は、大人とコミュニケーションを図ることで、気づくだけでなくさまざまな事柄を学んでいます。「金城クローバー」の作品からは、「こうしたら安全なまちにできる」という大人への提言が感じられます。「伊平もっと知り隊」の作品には、大人にも危険な場所を知らせて「共に助かりたい」という気持ちが表れています。

大切にしたい「三つのつながり」

子どもたちには、ぼうさい探検隊活動を通じて「三つのつながり」を作ってほしいと思います。一つは「仲間」とのつながりです。そのつながりは、実際に防災が起きたときにも大きな力となります。二つ目は「大人」とのつながりです。自分の両親の他に地域にいる大人とつながることで、その人たちの知識や知恵を受け取り、次の世代に伝えてほしいと思います。三つ目は「地域」とのつながりです。地域の自然や文化を知ること、地域の素晴らしさを学んでほしいと思います。

子どもたちがこの「三つのつながり」の輪を広げ、私たちのまちが「安全で安心なまち」になっていくことを心から願ってやみません。



審査総評を行う室崎審査員長

閉会挨拶



朝日新聞社 ゼネラルエディター
東京本社編集局長 外岡 秀俊氏



1000点を超す応募の中から、栄えある賞を受賞された皆さん、本当におめでとうございます。そしてこの活動を支えてくださった先生、保護者、指導者の方々、本活動に参加してくれたすべての子どもたちに、心より感謝申し上げます。

1995年の1月17日、阪神・淡路大震災がありました。今日ご講演いただいた室崎先生と本事業の発案者である渥美先生は、いずれもその日を神戸で迎えられ、それをきっかけに、さらなる防災活動に邁進して来られました。私も当日に現地入りし、以後3年半に渡って被災と復興を見てきました。その中で、印象に残っていることが二つあります。

一つは、全国の多くの自治体が、自分たちの地域への避難を呼びかけたにも関わらず、実際に被災地を離れた方がほとんどいなかったことです。やはり、「地域」で互いに助け合わないと生きていけないことを、多く

の人々が実感として持っていたのだと思います。

二つ目は、ある心理学者がおっしゃっていたことですが、大規模な地震や災害に遭遇すると、子どもは心に傷を負い、それが長年ストレスとなって残るということです。ところがその先生の話によると、地域で家族と共に歯を食いしばってその困難を乗り越えれば、そうしたストレスは残らないそうです。私も3年半の取材を通じ、地域や家族で「支え合う力」が、防災において何より大事だと感じました。

本日の中野先生の講演で印象的だったのが、ゲーム感覚で楽しみながらやると、子どもたちが夢中になって取り組むということです。こうしたやり方が、活動を長続きさせる秘訣だと思います。今後、この「ぼうさい探検隊」をできるだけ長く続けることで、少しでも災害被害の軽減につながられるよう、お手伝いしていきたいと考えております。

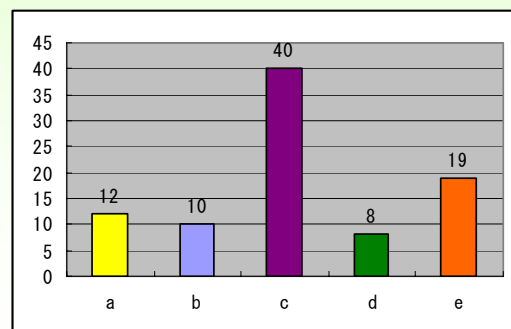


アンケート結果

◎参加人数 : 300名 アンケート回収数 87枚 回収率 : 29%
 ◎回答者性別 : 男性 56名、女性 31名
 ◎回答者年齢 : 10歳代…2名 20歳代…17名 30歳代…18名 40歳代…19名 50歳代…18名 60歳代…9名 70歳代…2名 無回答…2名
 ◎回答者所属 : 教育関係者…6名 消防・警察関係者…14名 学生…8名 行政関係者…8名 損保関係者…12名 その他…39名

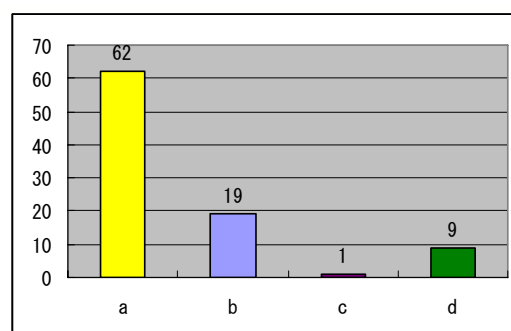
Q1. 今回のフォーラムを何でお知りになりましたか？（複数回答）

- a. 損保協会のホームページ・・・・・・・・・・ 12名
- b. チラシ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10名
- c. 知人の紹介・・・・・・・・・・・・・・・・ 40名
- d. 新聞・雑誌・・・・・・・・・・・・・・・・ 8名
- e. その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19名
 (内閣府、損保協会、消防署等からの案内 ……等)



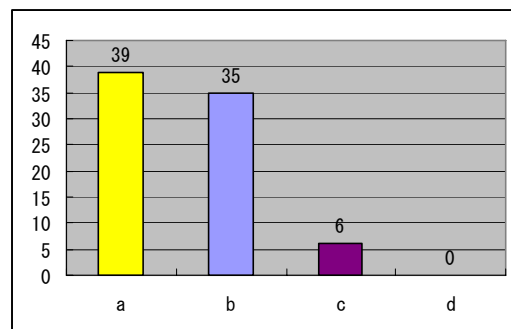
Q2. 今回のフォーラムに参加された動機(理由)をお聞かせください。（複数回答）

- a. 防災教育に興味があった・・・・・・・・・・ 62名
- b. テーマに興味があった・・・・・・・・・・ 19名
- c. 出演者に興味があった・・・・・・・・・・ 1名
- d. その他・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9名
 (子どもたちが実際に作ったマップを見たかった、
 仕事に役立つ、災害図上訓練 (DIG) の参考になる ……等)



Q3. 今回のフォーラムの感想はいかがですか？

- a. 大変興味深かった・・・・・・・・・・ 39名
- b. 期待どおりであった・・・・・・・・・・ 35名
- c. やや期待はずれであった・・・・・・・・・・ 6名
- d. 期待はずれであった・・・・・・・・・・ 0名



<a, bの主な理由>

- ・小学生の防災の視点がどこにあるか大変参考になった。
- ・「授業実践の手引き」が大変参考になった。
- ・マップ作りから子どもたちがいろいろなことを学んでいることが伺え、よい企画だと思った。
- ・入賞校のマップを身近に見ることでマップ作成のイメージが膨らんだ。
- ・子どものころから防災に取り組むことは大変よいことだと思った。
- ・実際にまちを歩いてマップを作成し、自分の町に愛着を持つことは素晴らしいことだと思った。
- ・子どもから大人へ防災を訴えかけるのは面白いと思った。 ……等

<c, dの主な理由>

- ・各受賞校のマップ作成の方法等をもっと詳しく知りたかった。
- ・個別の作品の紹介があるともっとわかりやすかった。 ……等

Q4. 今回のフォーラムで特に印象に残った内容を簡単にお聞かせください。

- ・子どもから明るい社会に変えていこうとする前向きな姿勢。
- ・子どもたちに自分たちが住むまちを深く見つめる機会を与えることの大切さ。
- ・小学生から防災教育を行い、災害に対する心構えを自覚させることの大切さ。
- ・子どもは「守られる存在」であると同時に「自分で命を守る」という意識を持たせることの大切さ。
- ・災害からお年寄りを守ってあげようという子どもたちの優しさ、素直な気持ち。 ……等

社団法人 日本損害保険協会 会員会社一覧

あ い お い 損 保
朝 日 火 災
共 栄 火 災
ジ ェ イ ア イ
ス ミ セ イ 損 保
セ コ ム 損 害 保 険
セ ゾ ン 自 動 車 火 災
ソ ニ ー 損 保

損 保 ジ ャ パ ン
そ ん ぼ 2 4
大 同 火 災
東 京 海 上 日 動
ト ー ア 再 保 険
日 新 火 災
ニ ッ セ イ 同 和 損 保

日 本 興 亜 損 保
日 本 地 震
日 立 キ ャ ピ タ ル 損 保
富 士 火 災
三 井 住 友 海 上
三 井 ダ イ レ ク ト
明 治 安 田 損 保

(22社50音順、2007年3月現在)

社団法人 日本損害保険協会

〒101-8335 東京都千代田区神田淡路町2-9

<http://www.sonpo.or.jp/>

【お問い合わせ先】生活サービス部

TEL : 03-3255-1294

FAX : 03-3255-1236